

教職の魅力創造プロジェクトに参加して

遠藤 耀(山形大学地域教育文化学部児童教育コース4年)

私は、教員の魅力創造プロジェクトで展開されている3つの事業に参加させて頂きました。

1. 「学ぶ」ことの楽しさを実感できる「学びのフォーラム」

「学びのフォーラム」では、高校生や大学生、社会人の方が参加し、同じテキストを読みながら「できる」「考える」「遊ぶ」とはどういうことかについて探究していきます。私は高校生の頃から参加させて頂いていますが、今でも参加するたびに新たな気づきや発見があります。立場や年齢の違う参加者同士で、お互いの価値観について語り合ったり、自分の経験を踏まえながらテキストの読みを深めていったりするのは、学校の普通の授業とは一味違う学びの経験ができる、楽しい時間だと感じています。今回参加した中で印象的だったのは、「教師自身が普段やっている当たり前を見直し、何のためにその活動を行うのかを考え、子ども達自身が自分からやってみようと思えるような教室をつくれたらいいな」と教師だけでなく、教員を志す高校生と一緒に考えることができたことです。この先も学びのフォーラムが、教員として働く上で「学ぶ」ことを見つめ直す場になりそうです。

2. 恩師の思いを聞くことができた「聞き書きプロジェクト」

「聞き書きプロジェクト」を通して、私は小学校時代の担任の先生にインタビューをさせて頂きました。当時、恩師は「自分に自信をもっていい」ことを伝えてくださり自分の背中を強く押して下さった思い出があります。恩師は「記憶には別に残らなくてもいいんですけど、関わった子ども達、ちょっとでも縁があった子ども達が、一つでも自分のいいところを見つけられたらいいなと思っています。自分でいいんだ。あの人と比べなくても、自分は自分でいいなって。」と語ってくださり、先生自身周りの人と比べて自分の魅力に気づけずに悩んだ時期があったからこそその思いなのだと感じました。小学校の先生とは、卒業したあとのつながりが薄れてしまうと思っていましたが、このように再会するきっかけをいただき、当時のことを思い出しながら、またこれからの進路についてもお話することができた、とても楽しい時間でした。

3. 高校生の視点から教室を見直す「小学校教員体験セミナー」

「小学校教員体験セミナー」では、高校生が小学校へ訪問し、働く教員の視点から授業を参観したり、休み時間に児童と関わったりすることができ、大学生は高校生をサポートする立場になります。高校生の活動の様子から子ども達とのかかわり方や授業の見方を学ぶことが多く、子ども達が興味を持つことができるような授業の仕掛けや、子ども達の困り感に気づいて寄り添う教師の姿を見取っている高校生に驚かされます。私自身、教室の見方を授業者の立場からだけでなく、日々授業を受けている高校生からの視点から見る事ができる貴重な機会だと感じています。